



□□□□□□

みんなのスペース

◆あて先・問い合わせ
〒028-1392 (住所不要) 山田町役場総務課情報係(☎82-3111内線417)へどうぞ。

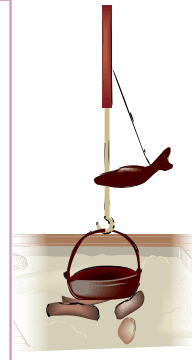
自給自足時代

窓ごしに、部屋に入る陽をうけながら遠くなった年末年始を思い出しています。

暮れの三十日の夜は、お煮しめの支度。一品に固い豆腐を四ツ切りにして串に刺し、炉の周りに刺して焦げないように両面を焼き、一本はみそを付けて田楽を作り、私の「ようなが」(おやつ)でした。ふうふう熱いのを食べたのが思い出されて懐かしいです。

それに「ほーごー」と「どんこ」も串に刺して焼き、煮しめの上に。フキ、ワラビ、昆布、ジャガイモなどでした。

正月用にと、自家作のゴマを鉄なべで焦げないようにへらで炒るのも、私の役。遊び心でパチピッチの音が今でも忘れられないです。



それから「かあらげ」「すりばち」ですりつぶし、両手ですりばちを押えて母と交代で「すりこぎ」ですり回し、味付けは後で。お正月近くになると、あれやこれやを思い出して心ワクワクします。

遠い日を辿るのもまた、楽しいものです。

菊地 サカエ(織笠・79)

人物紹介

今回は、私的に友人を紹介したいと思ひペンをとりました。

その人の名は、山田町文化財保護審議会委員の川端弘行氏(大浦出身)です。彼は何事についても一生懸命に取り組む事が多く、私とは正反対の性格です。

しかし、何となく馬が合うようです。一つ例を挙げると、私は歴史や史跡文化にはあまり興味がありませんが、川端さんは大浦郷土史をはじめ、山田町文化財保護審議会委員などの要職にあります。名所古跡の発見に熱心で、取り組み探して掘り出し、その様子をこと詳細に資料にまとめ、有志や友人に配り、

イラストコーナー



まっしろ (長崎・14)

広く文化財などへの知識と理解の高揚を広めながら、静かに喜びを噛みしめているようです。

私は歴史などには鈍感でしたが、彼の熱心な姿勢に魅かれて興味を持つようになった感じがするきようこの頃です。

川端弘行氏は、大浦郷土史についてはもちろんのこと、山田町文化財保護審議会委員としての大活躍は皆さまご周知のとおりでありまして、今更私ごときが改めて言うことでもないでしょう。ですが、最近いろいろな資料を貰い特に感じたものから、ご紹介しましたので悪からず、

例一、船越半島の歴史案内
一、山田町内戦時罹災調査書
一、山田湾基地物件引き渡目録などなど

他にもたくさんありますが、今回はここまでで終ります。

西館 隆(船越・81)

やまだ文芸広場

- ・かき小屋の 匂いに誘われ食べ来た
- ・米寿迎え ひ孫に囲まれ 浦島太郎
- ・家内にも やってあげたいお年玉

佐藤 兼男(荒川・87)

- ・来し方の 年程のこる 夢のかず
- ・羊らよ 群れになって喰ってくれ
- ・復(福)興草という 名もない草を

嶋田(豊間根・?)

- ・晴れやかな気持で寿ぐ正月
- ・熱き湯を 注ぎ入れたる湯タンポに 音なく暮れる今日は大寒

内館 洋一(飯岡・71)

- ・福が、クルカラ:
- ・福つら優しく:
- ・ふんわりと:

山田町民のみな様の笑顔が、大好き:

必ず福がクルカラ:

佐藤 啓子(船越・36)



だえきベイマックス (船越・13)